

地域の水環境保全を支援するCSR活動 「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を美しく」プロジェクト

株式会社 伊藤園

1. 伊藤園のCSR活動の特色について

伊藤園は、全国201ヶ所の拠点網を有し、社員が地域密着型のルートセールスを行っている総合飲料企業です。地域の皆様とのコミュニケーションに努め、「環境にやさしい」「人にやさしい」「社会にやさしい」企業を目指すことを企業の社会的責任（CSR）の目標として、取り組みを実践しています。

今回のテーマである『「お茶で琵琶湖を美しく。」・「お茶で日本を美しく。」プロジェクト』も、こうした考え方に基づいた取り組みです。

2. 取り組みの目的

飲料企業である当社にとって、水は基本中の基本です。2008年、「お茶で、日本一大きな湖、琵琶湖をきれいな湖として守りたい」という想いから「琵琶湖環境保全活動」を始めました。以後毎年継続して実施しています。2010年からは、「お茶で琵琶湖を美しく。」活動の経験を生かして日本の各地域の水環境を美しく保ちたいという狙いで、日本全国に活動を拡大し、「お茶で日本を美しく。」活動を開始しました。



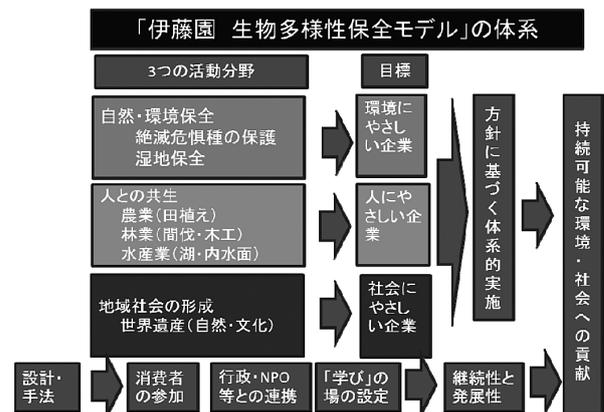
「お茶で日本を美しく。」活動のロゴマーク

「お茶で琵琶湖を美しく。」活動のロゴマーク

3. 取り組みの体系

■伊藤園の「水環境」を重視した「生物多様性保全モデル」

伊藤園は、「CSR推進基本方針」、「環境方針」に基づき、「生物多様性対応など環境課題へ自主的・継続的に



取り組み、人と自然との共生、自然資産の保全を通して地球環境の持続可能な発展に貢献すること」を掲げ、「環境・人・社会にやさしい企業」を目標に、消費者・行政・NPO等との連携で、持続可能な環境・社会への貢献を目指しています。

図の通り、「自然・環境保全」、「人との共生」、「地域社会の形成」という3つの活動分野において、環境・人・社会にやさしい企業を目指す、「伊藤園 生物多様性保全モデル」として体系化し、経営の中に組み込んで、次の基本的考え方で実施しています。

① 水環境保全に重点

水環境・水資源・水文化の保全に関係する地域を特定して継続的に活動を実施しており、寄付と社員・ボランティアによる実地活動を一体化して実施。

② 関係者との連携

消費者からの売上の一部を寄付するという仕組みによる幅広い参加と周知措置、並びに行政・NPO・コミュニティとの連携による環境保全等、CSR活動を密接に連携。

③ 教育の重視

専門家による支援を受けて、コミュニティとともに学ぶ教育の場を設定し、持続可能な開発のための教育（ESD）による地域の人づくりと社員の人づくりに貢献。これで活動の浸透と広がりを期待。



「お茶で琵琶湖を美しく。」活動の様子

4. 取り組みの内容

1) 「生物多様性保全モデル」の確立につながった「お茶で琵琶湖を美しく。」活動の概要

① 活動対象：琵琶湖の水環境・水文化特に水質保全・水源涵養を対象。

② 活動内容：ア) 寄付活動として、関西地区（滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県）の「お〜いお茶」飲料商品売上の一部を「琵琶湖環境保全活動」費用として滋賀県に寄付。寄付総額は、2008～13年度で6,163万円。イ) 社員・一般ボランティアによるヨシ刈りやヨシ苗の植栽による漂砂防止等、ヨシ原の保全と維持管理を実施。

③ 教育：ヨシ刈り終了後、コミュニティセンターで「公益財団法人淡海環境保全財団」の専門家による琵琶湖の水質改善効果を中心とした、講話を聴いて気づきを得る意見交換を実施。

2) 「生物多様性保全モデル」の全国展開「お茶で日本を美しく。」活動の概要

琵琶湖での活動から関係者との連携、専門家による支援、教育の重要性という知見が得られ、2010年から他地域に応用（2013年度は25都道府県）。

① 対象：全国25都道府県で様々な環境保全整備活動を支援し、うち12都道府県で水と関連する生物多様性の保全・再生を重視して自然環境保全活動を実施。

② 活動：「寄付活動と保全活動の一体化」を重視して、対象地域を逐次全国に拡大。寄付総額は、2010～13年度で6,362万円。主たる地域は「北海道 霧多布湿原」、「栃木 奥日光清流清湖 コカナダモ除去」、「東京 海の森植樹」、「愛知 海上の森」、「福岡



社員・一般ボランティアによるヨシ刈りの様子

福津ビオトープづくり」、「佐賀 虹の松原・有明海」等。

③ 教育：

ア) 「2013年度 奥日光 コカナダモ」：「奥日光清流清湖保全協議会」と連携して、湯ノ湖の「コカナダモ」の除去と周辺清掃を実施。これを契機に、写真撮影を通じて水や自然の大切さを学ぶ、(株)伊藤園特別協賛で奥日光清流清湖保全協議会主催奥日光清流清湖フォトコンテスト」につながり、奥日光水域の生物多様性の魅力について情操を養う持続可能な開発のための教育 (ESD) の実践の場に発展。



「お茶で日本を美しく。」活動
奥日光「湯ノ湖」におけるコカナダモ除去活動の様子

3)社員のモチベーション(参画意識)の向上:現場においては、常に、社員家族の参加を募り、ともに活動し学ぶことを奨励するとともに、一般の方たちとの話し合いの場(活動終了後の車座ミーティング)を設け、自然保護や公共の意識についての啓発を図り、誰にとっても持続可能な活動となるように努力しています。また、社内表彰制度としてCSR大賞を設けて、地域における優れた環境保全活動について表彰し、社員のモチベーションの高揚を図っています。(琵琶湖の活動は2013年度CSR大賞受賞)

8. 今後の計画

- 1) 伊藤園は、引き続き、「お茶で琵琶湖を美しく」・「お茶で日本を美しく。」活動を通じて、美しい水環境を守り、「地域づくり」、「人づくり」に貢献してまいります。
- 2) 水環境・水資源・水文化に関連する他事業との連携、特に「SATOYAMAイニシアティブへの参画」

伊藤園は石川県・福井県両知事提唱のSATOYAMAイニシアティブに発起人企業として参加しています。地域密着型活動を続け、「人と人のつながり」を重視し、原料調達、製造、販売、消費のプロセスにおいて、湖沼・河川をふくむ里山環境の保全に努めるとともに、社会・環境との「共有価値の創造」を目指し、地域とともに生きることを旨としています。

- 3) ラムサル湿地保全活動への本格的参画(2012年7月)

ラムサル条約湿地である渡良瀬遊水地の環境保全活動に参加しています。栃木県小山市と緊密に連携を図っています。

- 4) 持続可能な開発のための教育(ESD)の強化

伊藤園は、持続可能な開発のための教育(ESD)の手法の強化を図り、「社会・環境と経営の一体化」を担う社員育成及び地域の皆様方との本活動における体験、環境学習を通じて、地域に水保全活動の輪が広がっていくよう努めていきます。

- 5) 持続可能な生産と消費

伊藤園は、国際標準ISO26000のCSRを基礎にすえて、共有価値創造(CSV)の視点で人と人とのつながりを強化します。これに「人づくり」「地域づくり」のためのESDを加えています。伊藤園は以上の三者を統合させた経営戦略で、生物多様性の保護と持続可能な生産と消費により「Communi“tea”」づくりを目指していきます。



9. 伊藤園について

- 1) 伊藤園は、「お客様第一主義」を経営方針とし、「お客様を第一とし 誠実を売り 努力を怠らず信頼を得るを旨とする」を社是として掲げています。全社員が「今でもなお、お客様は何を不満に思っているか」という問題意識を常に持って「お客様第一主義」を実践しています。
- 2) 茶畑から茶殻までの一貫した活動で、人と人とのつながりで共有価値を創造しています。
- 3) 全国201の拠点を地域コミュニティの接点として位置づけ、全て正社員からなる約4,000名のルートセールスが各拠点に配置され、地域密着型で商品の説明、商談、配送を行います。
- 4) 長期ビジョン「世界のティーカンパニー」を目指して、これからも社員一人ひとりが、事業を通じたCSR活動を推進して社会・環境の持続可能性に貢献していきたいと考えています。

